



妙たえの光ひかり

復刊131号

「ありがとう」が最期の会話

鎌倉市・圓久寺住職婦人
故 松脇祐子さん(56歳)

松脇祐子さんは、新潟市で公務員の父の一人娘として生まれました。鎌倉市日蓮宗圓久寺のご住職松脇行眞上人と結婚して、30年になります。圓久寺は開創以来550年、檀家は100軒です。子どもに恵まれなかった松脇上人と祐子さんは、2人で力を合わせてこの寺を守ってきました。

松脇上人は東京で会社員の長男に生まれ、日蓮聖人の本に出会い僧侶を目指した在家(一般家庭)出身僧です。大学卒業後、縁あって住職不在だったこの寺を受け継ぎました。裏手が北条一族の史跡という静かな佇まいの中で、祐子さんは大好きな読書が楽しみでした。10年程前から体調不良を感じたものの、更年期障害くらいにしか考えなかったそうです。ところが昨年7月にやはり下腹部がおかしいと受診して、子宮周囲の進行ガンと診断されました。詳しくは開腹が必要だが最終段階のステージ4で、手術は15時間かかり、その後は人工肛門になるとの告知です。

突然のことで慌てましたが、不思議と痛みもなく実感が沸きません。手術しても回復できないのなら、何もしないと決めました。やがてだるさで寝込む日が増えたものの、それでもたまに近くの開業医に腹水を抜きに行く程度の症状です。しかし若いせいかわ病状の進行は早く、11月5日夫の松脇上人に看取られて静かに他界されました。「最期まで穏やかで痛みがなかったのが不思議です」と悲しみのなか松脇上人は語ります。(2ページに続く)

行事案内



春のお彼岸中日法要&映画上映

3月20日(木・祝)

午前10時 安穩廟法要
(10時~12時 任意後見無料相談あります)
10時30分 春季彼岸法要...本堂
11時30分 住職法話
12時 お齋(とき)(昼食)
13時 映画『田吾作どんのいる村』上映(大広間)
13時50分 対談(住職×猪浦直樹監督)

お彼岸は春秋2回、陽気も良くなり昼夜の時間が同じになるこの日、心の偏りをなくして仏様の教えを修行しましょうという古くからの行事です。法要や一般^{生支縁}の専門家による任意後見相談コーナーがあります。



午後からは安穩檀徒の猪浦直樹氏製作・監督・脚本の映画『田吾作どんのいる村』の上映があります。どうぞお出かけください。※詳細は別紙チラシをご覧ください。

第15回浄土講座

4月12日(土) 午後1時半

『おひとりさま・おふたりさまの高齢期を安心して過ごすために』

個・孤の時代の高齢期 ~ 誰もがおひとりさまになる時代』

講師：沢村香苗さん
(株)日本総合研究所・シニアスペシャリスト
※詳細は別紙チラシをご覧ください。

梶原徹也さんによる リズムあそびワークショップ

5月11日(日) 午後2時

■募集：幼児~小学生約30名
■参加費：500円(材料費込み)
※定員になり次第締切ります。詳細は別紙チラシをご覧ください。

あとがき



1月のお寺では9日間の浄土講座が行われました。僧侶資格を取るお2人とともに、毎朝8時半から火の気のない本堂で読経し夕方4時半まで勉強する日々。少しだけ修行気分を味わうことが出来ました。春になります。どうぞお寺にお出かけください。(新倉理恵子)

『お寺の日 妙光寺開山会』

5月31日(土) 午前9時半開門

江戸時代から続く春の伝統行事「ご判さま」と、夏の「送り盆」(フェスティバル安穩)が一つになり、一昨年からは始まった『開山会』。稚児行列や元ブルーハーツのドラマー梶原徹也さんの『奉納演奏』、声明とドラム、和太鼓による『コラボレーション法要』があります。境内にはお店やキッチンカーも出ます。ご家族、お友達、皆さんでお参りください。※詳細は開山会パンフレットをご覧ください。



お稚児さん“新調衣装”で募集

上記『開山会』にあわせ、法要に出仕していただくお稚児さんを募集します。古式ゆかしい衣裳を着けてのお練りなど、子どもたちにとっても貴重な体験となります。

- 5月31日(土) 9時半~12時
 - 5歳~10歳くらいまでの男女児30名
 - 参加費7千円
(きょうだいで参加の場合、2人目は6千円)
- ※詳細は開山会パンフレット裏側をご覧ください。



お経と寺ランチの会 (信行会改め)

毎月第1水曜日 午前9時~11時

- 3月5日(水) ● 4月2日(水) ● 5月7日(水)
 - 6月4日(水) ● 7月2日(水)
- お参り、お経練習、瞑想、作務、等があり、終了後みんなでお昼を頂きます。予約申込み不用。当日直接お寺へお越し下さい。
■ 参加費：お志を各自賽銭箱にお願いします

ボランティア

毎月15日 午前9時~11時半 午後1時~3時

堂内や境内の清掃等をお願いしています。都合の良い時間にお越し下さい。一日可能な方は昼食のご持参をお願いします。



2人の出会いは妙光寺

2人の出会いは、独身当時の松脇上人が夏の行事のお手伝いのために度々妙光寺を訪れた時でした。松脇上人は、大学の同級生で親友である大分の菊池泰啓上人と一緒に、大型バイクで毎夏妙光寺にやって来ました。(菊池泰啓上人は、一昨年春まで勤務していた泰全上人のお父さんです)そして、やはりお手伝いで参加した祐子さんを見初めたのです。「何とかしてほしい」と現院首が相談されましたが、直接の知り合いではないので連絡方法が分かりません。

そこで当時連載していた読売新聞



新潟版のコラムに、『坊走族』と題

して松脇上人と菊池上人のことを書いたのです。ツルリと剃り上げた頭にヘルメットを被り、鎌倉と大分から大型バイクで来る爽やかな青年僧侶としてユーモアも交えて紹介し、その1人が妙光寺で出会った女性を忘れられないと言っていると書き添えました。まもなく「あの、私のことでしょうか」と電話がありました。偶然新聞を目にしたという祐子さんでした。以来、松脇上人が妙光寺に寝泊まりしながらデートを重ね、2人は2年後に結ばれました。結婚式では、院首夫婦が仲人を務めました。

住職と共に寺を守って

松脇上人は大学卒業直後の独身時代には、お釈迦様の聖地インドやイラクをはじめとした中東の紛争地帯を、菊池上人らと共に団扇太鼓を叩きながら平和を訴えて歩いてきました。結婚後もバイクで全国の寺を巡り、お説教に招かれることもしばしばでした。

祐子さんは住職留守中のお寺を守り、ときには共に太鼓を叩いて鎌

倉市内等々を歩きました。お寺の

行事では裏方の準備をしてから、檀徒の皆さんと一緒に参りを欠かしません。いつも熱く語り行動する松脇上人に対して、もの静かで質素で真面目な祐子さんでした。祐子さんは病床で「あなたのお話はいつも私の心に響いたわ。以前、大きな幸せ小さな幸せ」というお話を聞いたの。がんになって1杯のお水がとても美味しく感じ、自然の風が気持ちよくて、こんな小さなことでも幸せなのだと思えたの。病気になるよかったですと思うことが沢山あったわ。あなたは私の先生です」と語ったそうです。

お寺での看取り

一人娘の祐子さんは、「心配をかけるから」と病気のことを実家の両親に伝えないように言い続けました。マッサージに通ってくれた友人ら周囲の助言で、亡くなる2週間前になって地域包括支援センターに相談して介護ベッドを入れ、さらに訪問診療の医師と看護師をお願いしました。訪問医は吐き気止めや軽い睡眠剤などを

処方し、親族に知らせるようにと

言いました。松脇上人は、意を決して祐子さんに言わずにご両親に連絡して来ていただいたそうです。このときのご両親の驚き悲しみを思うと、心が痛みます。

話を聞いた良恵住職の妹たち3人が、東京からお手伝いに行きました。松脇上人は良恵住職がお経を習ったお師匠様です。妹たちにとっても、松脇上人は幼いころから一緒に遊んでもらった兄のような存在です。部屋を掃除して松脇上人にゆつくり入浴していただき、店屋物ばかりだったので食事を作り置きしました。祐子さんも食べられないのにベッドから、「あーあ、私もお腹すいた」というユーモアを失いませんでした。その後「医師から近日中と言われた」との連絡で住職の妹2人がお寺に伺ったその夜、祐子さんは静かに息を引き取りました。

前日松脇上人が枕もとで思わず涙ぐんだら、「どうしたの?」と祐子さんが聞いたそうです。「結婚してくれてありがとう」と応えたら「私こそありがとう」と。これが最期の会話になりました。(院首記)

安穩

小川良恵

「シャバ」の方が
空気は美味しい?

浦和から新潟の雪を…

出張先の浦和市で、これを書いています。おりしも全国的に大寒波が襲来し、新潟県内にも大雪警報が発令されています。出かけてくる時点ではさほどの雪は降りませんでしたので、無事に新幹線に乗ることが出来ました。ただ気がかりなのは、燕三条駅の高架下の駐車場が全て満車だったため、致し方なく屋外の駐車場に車を止めてきたこと。今晚の降り方次第では、車が出せないなんてこともあるかもしれません。そんなわけで、新幹線を1、2本見送ってでも車の出待ちをして、屋根のあるところに駐車すれば良かったらうかと、少し後悔しています。(悪い予感的中して、帰りは大雪で大変な思いをしました)

寺庭婦人研修会

不要不急の外出は控えるようにと報道されていますが、出張なので仕方ありません。…とというのは、実は半分言い訳で、県外に出ることは息抜きにもなるので、出来れば出たかったというのが半分の本音です。葬儀や法事での出張ですとそう呑気なことも言えないのですが、今回の出張の目的は「寺庭婦人研修会」のスタッフとしてお手伝いのためなので少しは良いでしょう。「寺庭婦人」とは、お寺の奥さんのことです。

今回、私の師匠である松脇上人の奥様のお話が表紙になっていますし、母なぎさの苦労話な

シャバは忍土・忍界

ど皆様もよくご存知かと思えます。お寺に嫁いだ女性たちは、作法や檀信徒との付き合いの仕方に悩むことも多く、相談する相手がいない人も少なくありません。そうした悩みを答える場として日蓮宗宗務院が、年に2〜3回全国各地で研修会を開いているのです。

「今どき、寺庭『婦人』という言い方は正しいのか」とか、「近頃は外で働いている奥さんたちも多い」とか、そこは日頃の疑問を語り合い、情報交換の場になっているようです。同時に寺庭婦人にとってこの研修会が息抜きの場になることを期待して開催されているとも言えます。

お寺に定休日はありません。ですから任侠映画に「シャバの空気は美味しい」という台詞が出てきますが、私もたまに外に出ると全く同じ感想を抱きます。任侠と同じと語弊もありますけれど。

ご存知の方も多いでしょうが、「シャバ」とは元来仏教用語で娑婆世界、つまり私たちが生きていくこの世界のことを意味しています。忍土・忍界なども訳されます。それは私たちに心の中に数々の煩惱があり、外には災害などの苦しみがある。それらに耐え忍ばなければいけないから、というのが由来です。そう考えると、苦界であるシャバの方が空気が美味しいというのは、逆の言い回しですが、全ては私たちがどんな立場にいるかにもよるのかもしれない。



しゃみ
◆『沙弥校・第14回浄土講座』◆ 1月11日(土)～19日(日)

2人の沙弥研修に併せて浄土講座として、檀信徒の皆さんに公開講座としました。



9日間朝から夕方まで皆さんが熱心に聴講されました。



鎌倉市圓久寺住職松脇上人のお経指導



院首による妙光寺の歴史、「経蔵」での解説



良恵住職は仏教行事の由来や意味を解説



北海道大学大学院教授櫻井上人(妙光寺徒弟)の仏教講義

◆『角田地区檀徒お経会・新年会』◆
2月1日(土)

昭和の中頃から形を変えつつ代々継承されている、地元角田浜檀徒による集まりです。「今年もお願いします」の乾杯。



最終日の午後、参加者による座談会を急遽追加しました。



◆『厄除け祈願祭』◆
2月23日(日)

50名を超す申込がありました。予定の8,9日が大雪のため2週間延期して開催しました。



寺のうごき



◆『菩薩の森』本堂・客殿裏整備◆

イノシシ対策で降雪時期を前に、急ぎブロック塀積みを完了しました。



◆『年末詣で』◆ 12月31日(火)

前年までの深夜に行っていた「除夜の鐘」を、大晦日午後に変更しました。午前中の雷雨も上がり、沢山の人で賑わいました。



本堂での歳末法要



一時は休憩所の大玄関も溢れるほど。

◆『お年始詣り』◆ 1月1日(水)、2日(木)

穏やかなお天気で1日は朝から家族連れで賑わいました。お茶クラブによるお茶席を楽しみにして下さる方が増えました。



檀徒宅にスロバキアからホームステイ中のナタリーさんにもお手伝いいただきました。

鐘撞きは整理券で順番です。



お焚き上げの火で焼くスルメイカも好評でした。



福引き交換所も大忙し

「祈り」のエネルギーをリズムに込めて

昨年8月、「送り盆」で素晴らしい奉納演奏をしてくださったドラマー・梶原徹也さんが、今年5月31日(土)開山会で演奏してくださることになりました。

5月11日(日)には、子どもたちとの*「リズムあそびワークショップ」もお願いしています。梶原さんの奉納演奏にかける思いをテレビ電話でうかがいました。

*詳細はチラシをご覧ください



梶原徹也さん
1966年生まれ61歳。九州出身。「リングタリダ」等の名曲で知られるブルーハーツで、ドラマーとして活躍。1995年ブルーハーツ解散後も様々な音楽活動を続け、神社での奉納演奏も各地で行っている。2015年には鼓童の舞台「混沌」のドラム監修も手がけられた。

Q ドラムという楽器を演奏することになったのはなぜですか？

梶原 そもそもは中学時代にビートルズに夢中になって、リング・スターがカッコいい！と思ったんですね。最初は枕や座布団を周りに置いて叩き、高校からはドラムセットを買って叩き始めました。

Q そして二十歳過ぎで、ブルーハーツのドラマーになるんですね。

梶原 大学入学で上京して、アマチュアバンドで活動していました。ブルーハーツのドラマーが抜けたという話を聞いて会いに行き、セッションしたらフィリッパが合っただけで加わることになりました。

Q 私は高校の教員だったのですが、不登校の生徒で、学校に来ない日は布団の中でブルーハーツを聞いているという子がいたんです。だから私には、生

きる力を放出しているバンドというイメージがありました。

梶原 実は私も不登校だったんですよ。高校時代に学校に行けずに昼夜逆転して過ごしたことがあります。その時の支えがロックでした。私も布団の中でロックを聞いていました。自分も助けられたので、それを今度は伝えたいという気持ちもちょっとだけ持って、音楽活動を続けています。

Q そのブルーハーツというロックバンドから、神社で奉納演奏をなさるのはなぜですか？

梶原 ロックを聞き始めた頃から、仏教思想や東洋思想に関心があり、ジョージ・ハリソンやYMOの細野晴臣さんの本を読んで影響を受けました。音楽をやるようになって、最初は自分の知識や才能でやっていると思ひ込んでいたんですが、3〜4年経つ

と空っぽになっちゃって、自分の力でなんて考えるのはおこがましいと思うようになり

ました。やはりどこからインスピレーションを頂いて、それをわかりやすい形にして音楽の世界に落とし込んでいると実感するようになった。「芸能」は神仏のバイブレーションを皆さんにお伝えするものと考えようになっただけです。だから自分の「我」(エゴ)を出さずに、神様仏様から得たものをなるべく清らかに保って表現できるようにしたい。その一つの形が奉納演奏だと思っ

Q 奉納演奏はいつ頃から始められましたか？

梶原 95年にブルーハーツを解散し時間にも余裕ができて、仕事の合間に神社仏閣を巡るようになったんです。10年間ぐらい巡っていて、和太鼓の方がやっ



2024年「妙光寺の送り盆」

になり、ネガティブに使えば「呪い」になる。フォーカスの仕方だと思えます。ただ神仏に捧げるということで演奏させて頂くと、その場がポジティブなバイブレーションで満たされるという思いがあります。「叩けば響く」ー打楽器は本当にわかりやすい楽器で、叩くとその人のバイブレーションがバァーンと広がります。

Q 洋楽器のドラムで奉納演奏をするのは、珍しいですよね。

梶原 ブルーハーツ解散から奉納演奏まで10年かかったのは、私自身もお寺や神社でドラム演奏というのはどうなんだろうと思っていたからです。その時に高鳴神社の宮司様から、こういう形であれ神

仏に対する「祈りの心」が一番大切だと言われて、やらせて頂きました。現代の日本の生活では演歌にも普通にドラムが入っていますし、民謡ばかり聞いているという人も少ない。伝統ある場所にドラムを持ち込むのも、伝統と皆さんを繋ぐ役割ではないか、あとは私という演奏者自身の姿勢にかかっていると考えています。

Q 開山会前の11日には子どもたちとの「ワークショップ」があります。

梶原 「ワークショップ」はいつからやっておりますか？
梶原 今参加しているサルサガムテープというバンドは、障害のある子どもたちの施設に行っ

て一緒に太鼓を叩くところから始まりました。資金もなくガムテープを使って作った太鼓を演奏しました。私の「ワークショップ」は10年位前に始めました。サルサガムテープの活動から一番核になる部分を取り出して、子どもたちとリズム遊びをする。幼稚園から小学校、障がいのある子どもたちも本当に楽しんでくれるんです。もう遊びまわって叩きまくって、止まらない。「祈り」と子どもたちの純粋なエネルギーは親和性があって、あのエネルギーがそのまま「祈り」になったら最強です。我々大人は頭で考えてしまいうけど、いろんなことを素直に受け止めて生きていけたらと思います。

Q 日蓮宗には団扇太鼓がありますが、団扇太鼓とのコラボレーションはいかがですか？

梶原 実は日蓮宗のお寺での演奏は、この妙光寺さまが初めてなんです。

院首 え！それは光栄です。

梶原 こちらこそ、ありがとうございます。実は私自身も団扇太鼓を持っていて、山の上で奉納演奏をした時に使ったこと

があります。
院首 ドラマーの梶原さんが団扇太鼓を叩く姿というのは、想像できないのですか？

梶原 普通にトントントントんと単純にリズムを刻むだけです。なぜ音楽にリズムがつきものなのかというと、心臓の鼓

動だと思えます。心臓の鼓動は、お母さんのお腹にいる時から刻んでいて、止まった時に命が終わる。最初から最後までずーっとハートビートしているわけで、シンブルであればあるほど、より深い「祈り」とか深い「瞑想」に入って行けるよう

Q 神社やお寺での演奏は、ステージでの演奏と違う点がありますか？

梶原 元になってはいるエネルギーというのは変わっていません。人間の持っているエネルギーは、ポジティブに使えば「祈り」

うです。それが出来るのも、「祈り」の場所であるお寺でこそ、と考えています。

Q 昨年8月の妙光寺での演奏はいかがでしたか？

梶原 自分としては技術的にクリアな

Q 期待が高まります。5月の演奏の抱負を聞かせてください。

梶原 日蓮宗では妙光寺さまが初めてなので、一つ形を創りたいと考えています。今年で完成というのではなくて、皆さんと一緒に創りあげる。最強のツールである団扇太鼓に「祈り」を込めて、「祈り」のエネルギーの渦を皆さんと一緒に創れたらと思います。日常のお寺での体験が積み重なっていると、「祈り」がすごく身近になって全然違ってくるんです。そういう日常を日本でも創っていかたいと思っています。

5月を楽しみにしています。ありがとうございます。
(聴いた人・編集部 新倉理恵子)



Q 妙光寺への寄付は、 所得税の控除対象になりますか？

残念ですが 宗教法人への寄付金は、
所得税の原則控除対象にはなりません。

特例として国宝や重要文化財などの国指
定文化財を修理する場合や震災復旧等の
寄付の際には、寄付者が税制上の優遇措
置を受けられる制度があります。しかし妙
光寺で現在お願いしている寄付は対象外で
す。全ての寄付金が控除対象になるわけで

はなく、「公益性の高い事業に対してのみ
控除を適用する」という考え方に基づいて
います。

なお、宗教法人への贈与は非課税です。
寄付金に課税されることはありませんので、
ご安心ください。

寄付は任意で強制ではありません。ご無
理のない範囲でご協力頂けると幸いです。



妙莊嚴王の帰依

『妙莊嚴王本事品第二十七』

タイトルの「本事」とは過去世(前世)からの因縁を意味します。
妙莊嚴王本事品には、妙莊嚴王が如何にして仏教に帰依することになったのか、
そのあらましが説かれています。

妙莊嚴王の2人の王子

私たちが想像も出来ないはるか昔、雲雷音宿王華智如来という仏様が現れた頃のことです。当時の国王である妙莊嚴王はバラモン教に帰依していました。妙莊嚴王には良く出来た2人の王子がおりましたが、彼らは仏弟子となって厳しい修行に励み、その全てを成就させていました。

2人の王子の奇跡で 王は仏の道へ

2人の王子は雲雷音宿王華智如来の説く法華経を是非両親にも伝えたいと考え、王妃である母親に「一緒に仏様の御前に参りましょう」と頼み込みます。王妃は「それならば、あなたたちの持つ神通

力を使いなさい。修行の成果で起こす奇跡を目にすればお父様も心を打たれて、共に行くことを許してくれるでしょう」と答えました。

父親を案ずる息子たちは、瞬間移動や空中浮遊、身体から火や水を出すなどの様々な奇跡を起こしてみせました。父王はすっかり感心して喜び、「お前たちの師は誰なのか」と尋ねます。そこで王子たちは、自分たちの師は雲雷音宿王華智如来であること、仏様の説かれる法華経は、*「盲亀の浮木・優曇華の花」と喩えられるように、滅多に出会うことはない大変ありがたい教えであること、父と母にも信仰の道に入って欲しいことを告げました。妙莊嚴王はその言葉を受け入れ、王妃、そして大勢の国民と

共に雲雷音宿王華智如来の御前へ赴き、信仰の道へ入りました。妙莊嚴王はやがて華徳菩薩となります。

出会うのが難しい仏さまと 法華経の教え

この章で説かれるのは、過去に仏教を信じていなかった者も変わることが出来ること。そして、出会うのが難しい仏さまと法華経に出会うためには、父子が互いに善知識(人を仏道に入らしめる者)となって導くことが大切であるということです。

*「盲亀の浮木」…目の見えない亀が海面に浮かび上がった時、浮かんでいた木の穴に頭が入ること。「優曇華の花」…3千年に1度しか咲かないとされる伝説の花。ともにめったに起こらないことに出会うことのたとえ。



新体制が始動しました

非常勤の交代制でお手伝いいただいた田村上人ご兄弟と遠山上人は、それぞれのお寺が多忙となりこれまでの頻度ではお手伝いをお願いできなくなりました。一昨年春までの菊池上人のよう、常勤できる方を幅広く声がけし探しましたが、僧侶のなり手減少で本山でも困っている昨今の状況では見つけられません。仮に見つかったも短期間では不安定です。

そこで寺務職員の菊池崇子さんから「僧侶資格までは無理でもその手前の沙弥(しゃみ)になって、通常の月参りやお墓参り

受講中の菊池さん



圓久寺で読経練習する名和さん



等の住職のお手伝いを勤める」と申出がありました。菊池さんは住職と高校の同級生のご縁で、2年前から妙光寺に勤務し、住職の良き相談相手です。また住職の従兄弟である東京在住の名和国光さんからも「来年定年退職なので、一緒に沙弥になってお手伝いしても良い」とのお話がありました。名和さんの母親が妙光寺生まれなので幼い頃から妙光寺に遊び、近年は専門のコンピュータエンジニアの技術を活かして妙光寺のシステムを全て担っています。非常にありがたい話です。

今年1月に9日間の集中講義を行い、さらに修行を継続中です。3月27、28日に本山の千葉県清澄寺での度牒(とく)交付式を経て、沙弥として僧服の着用も許可されます。僧侶一歩手前の仮免許といったところでしょうか。今後はこのお2人が葬式や法事以外のお参りを担当します。お盆や大き

な行事等のお手伝いはこれまで通り、先のお上人や鎌田上人等にもお手伝いいただく体制に変わりはありません。ご理解とご協力をお願いいたします。

併設の『浄土講座』好評でした

沙弥を希望する2人のための研修会でしたが、少人数ではもったいないとの声で檀信徒の皆様が自由参加の『第14回浄土講座』としてご案内しました。丸9日間、朝から夕方までの長時間の講座に、延べ50人近い方が参加されました。専門的な内容も多く心配しましたが、皆さん熱心にメモを取りながら聴講され、沙弥希望者が一人増えました。今後も続けて欲しいとの要望が多く、次回を3連休になる11月22、23、24日の3日間連続で開催することにしました。

『菩薩の森』事業経過報告

昨年末にご協力をお願いした『菩薩の森』計画ですが、唐突感もあり心配をお掛けしていることをお詫びいたします。お陰様で別表のように、2ヶ月ほどで目標額の半分までになりました。心から感謝申し上げます。お陰様で冬の積雪時はイノシシ対策に



石工の漆山さんの「菩薩石像」下絵

『菩薩の森』お申込み集計表 (2025.2.17現在)

金額	件数	合計金額	割合
1~9万円	100	1,760,000	61%
10~99万円	53	7,210,000	32%
100万円	4	4,000,000	3%
200万円	7	14,000,000	4%
計	164	26,970,000	100%

効果がない電気柵に代わり、本堂・客殿裏手のブロック塀工事を降雪期前に終えることができました。3月からは整地と植栽を進めます。更には近年夏の酷暑対策として客殿冷房設備・参道の舗装等、皆様が安心安全に参拝できる環境整備の拡充を図りたいと考えています。同時に奉納お申込みをいただいた菩

薩石像は、石工の漆山さんが掲載のような下絵をそれぞれに描いて下さっています。目標金額まであとの半分が厳しいかと案じています。引き続き「菩薩名指定の石像ご奉納」を受付中ですので、是非ともお問い合わせご奉納いただければ幸いです。「菩薩名指定のないご奉納」は年内一杯を目標に受付を継続します。諸物価高騰で多難な時節柄誠に恐縮ですが、1口1万円からのご協力を重ねてお願い申し上げます。

開山会の稚児衣装を新調

300年来続くと言われる妙光寺の最大行事(二昨年より「開山会」と改めました)では、毎年お稚児さんの出仕があります。近年その希望者が増え、狩衣(かりぎぬ)と呼ぶ衣装が不足し、定員



現在の「狩衣」を見ながら打合せ中の池先生



石田トミさん

超過でお断りすることがあります。その衣装も経年劣化で汚れや傷みが目立つようになり、数も不足しています。新調するにしても技術者の減少と高齢化で金額が高騰し、制作日数も見通せないそうです。

相談の結果、生地を正絹から洗濯可能な化纤に変更し、刺繍も一部を断念してコンピューター複製によるプリントにします。こうした一連の行程と縫製を、韓国のデジタル円光大学伝統服飾学科池教授の研究室に委託しました。高度な技術を持つ学生さんたちが研究をかねて担当し、費用も極めて安価に抑えられました。また下に着る和服を、地元角田浜の石田トミ(92歳)さんがボランティアで縫ってくださっています。冠と袴はレンタルの予定です。

お稚児さんの新品衣装による今年の開山会は、一層華やかになります。是非お参りください。

Aさんの任意後見契約

認知症や重篤な病気の際に親族等の保証人がいないと、入院や施設入所が困難です。本人の権利や財産も守られないので、裁判所から法定後見人が割り当てられることにもなります。その心配のある方はご自身が納得できる人(法人)を選べる、任意後見人を決めておくことをお奨めしています。後見人の業務は大変なためになり手が少なく、そのためのトラブルから一部で社会問題化しています。妙光寺では以前から相談がありましたので、信頼のおける一般社団法人「生支縁」をご紹介します。連携しています。

一人暮らしのAさん(82歳女性、新潟市在住)は御主人が他界され、子どもがおらず県外在住の妹さんも高齢です。最近になって親しい友人が認知症になったりご自身が倒れたりしたことで心配が増して、現在「生支援」との任意後見契約のための手続きを進めています。契約金は必要ですが、お元気なうちは安否確認する毎月の訪問経費しかかかりません。認知症を発症すると契約ができませんので、事前契約が必要ですが、手続きが慎重に行われるため時間を要します。

卒塔婆の寸法が変わります

檀信徒の皆さんが故人の冥福を祈る追善供養のために、法事やお盆で立てるのが卒塔婆です。インドでのお釈迦様の遺骨を納めた塔(ストゥーパ)が起源とされ、日本では当て字をして卒塔婆となりました。

近年その原材料費が高騰して、現行の5尺(150cm)2,000円ではご用意できなくなりました。使用する板材は元々間伐材ですから、自然環境破壊の問題はありません。人件費と輸送費の値上がりによるものです。そこで皆様のご負担を増やさないため現行金額のまま据え置いて、寸法を4尺(120cm)に変更することにしました。5尺の在庫がなくなり次第4尺に移行いたしますので、ご理解のほどお願いいたします。

